

ワークショップ（グループヒアリング）  
「行政を他人ごとにしておくのって、もったいなくない？」開催報告

## 1 目的

若者の現状、意識について、深く知ることにより、若者の市政参加を促すヒントを得る。

## 2 日時

平成30年11月14日（水）18時30分～20時30分

## 3 場所

職員会館かもがわ 3階 大多目的室

## 4 参加者

11名（京都市に在住、通勤、通学している13歳～30歳までの方）  
（内訳：社会人2名，学生9名）

## 5 運営（10名）

- ・市民参加推進フォーラム委員  
杉山座長，内田副座長，壬生副座長，池田委員，大鳥井委員
- ・総合企画局（市民協働推進担当）  
市民協働課長 福田，市民協働企画係長 山下，松岡
- ・子ども若者はぐくみ局（育成推進課）  
青少年育成係長 高橋，中田

## 6 内容

概要
開会挨拶，趣旨説明，自己紹介
京都市の取組説明
感想共有
市民公募委員疑似体験（約10分） 少人数のグループに分かれ，市政に係る事案に対して意見を出し合い，市政に対して意見を言うという行動を疑似体験する。 ・事案のメリットとデメリットの両方を出してもらう。 ・ドット投票。大切だと思う意見3つにシールを貼る。 ・発表。シールが多かった上位3つのみ。
グループヒアリング（約60分） 市政参加の意識について，ヒアリングを行う。 3つのチラシを切り口にアイデアを出してもらいながら意見を深める。 （青少年モニター募集，公募委員募集，ワークショップ広報のチラシ）
グループ発表
感想共有
クロージング

## グループヒアリング結果（概要）について

### 1 市政参加経験の有無

主な意見
市政参加経験有：4人 「京都マラソンボランティアに参加したことがある」 「青少年活動センターで学習支援ボランティアをしている」（2人） 「市民公募委員に応募したことがある」（1人）
市政参加経験無：7人 「京都市が設けている様々な市政参加制度を知らなかった」 「学習支援ボランティアはしているが、それが京都市主催の事業なのか知らない、分からない」 など

### 2 このワークショップ（グループヒアリング）に参加した理由

主な意見
<ul style="list-style-type: none"><li>・京都市の市政参加に興味があった（他都市在住）。</li><li>・予定が空いていた。</li><li>・知り合いに誘われた。</li><li>・タイトルがよかった。</li></ul>

### 3 なぜ市政参加しないのか

主な意見
<ul style="list-style-type: none"><li>・市の施策は決定事項であり、反対ぐらいしか言うことがない。</li><li>・住民票がある場所ではないのに、意見を言っているのか分からない。</li><li>・市政に意見を言う意味が感じられない。本当に変わるのか疑問。</li><li>・若者に本当に来てほしいと思っているのか分からない（伝わってこない）。</li><li>・仕事で時間がない。</li><li>・若者はお金がないので、興味がわかないところに出向く余裕がない。</li><li>・自分の生活を回すことを優先している。</li></ul>

### 4 若者に市政参加を促すにはどうすればよいのか

主な意見
<ul style="list-style-type: none"><li>・若者が市政参加することによって得られるメリットがはっきり分かればいい。</li><li>・一番有効なのはお金や物。交通費が出るだけでも嬉しく、参加しようと思う人はいる。</li><li>・市のロゴ等が入った物品よりも、図書カード、商品券等使途が自由なものの方がうれしい。</li><li>・人とのつながりが得られる点はメリットになる。</li><li>・社会貢献になる、就職活動時に役立つなど広報でPRする。</li></ul>

## 5 行政の広報の仕方について

主な意見
<ul style="list-style-type: none"><li>・行政の SNS は、文字情報が多く写真が少なく、とっつきにくい印象である。</li><li>・市民に「伝えたい」という思いが伝わってこない。</li><li>・「京都市は SNS で何を見せたいのか」という方向性を統一させて運営した方がよい。</li><li>・「行政の SNS」にある堅苦しいイメージとのギャップを狙い、絵文字を多用したり、カラフルな画面で発信したりして、インパクトを残すことを第一に考えた方がよい。</li><li>・大学のポータルサイトやツイッターに載せるのは困難かもしれないが、多くの人の目に触れる機会にはなる。</li><li>・大学で直接、説明会などをすれば伝わりやすい。</li></ul>

## 5 チラシについて

主な意見
<ul style="list-style-type: none"><li>・キャッチフレーズは曖昧だと分からないが、逆にそれで興味を持つ人もいる。</li><li>・「一緒に〇〇しませんか」という呼びかけの文言があると、興味をひかれる。</li><li>・「何故そのイベントをするのか」ということを、若者にとってのメリットを前面に出す形で伝えた方が関心をもつ。</li><li>・パッと見て、「手にとろう」と思えるかどうかが大変である。</li><li>・文字の量が多いものは、関心のある人しか見ない。若者向けにするのであれば、極力情報量を少なくした方がよい（興味をもてば、自分から検索して調べようとするから）。</li><li>・参加対象者が「青少年」など明確に分かると、「自分は行ってもいいのだ」という安心がわく。</li><li>・内容のイメージが浮かぶくらい、過去の様子や写真、過去参加者の声等を掲載すると分かりやすい。</li><li>・会場へのアクセス方法は地図と一緒に載せるなど、分かりやすい方がよい。</li><li>・申込方法は、メールアドレスを打ち込むよりも QR コードで読み取れる方が手軽である。</li></ul>

## 6 参加した感想

主な意見
<ul style="list-style-type: none"><li>・市政参加の仕組みが分かった。</li><li>・市政参加が身近に感じられるようになった。</li><li>・意見を出し合うことが楽しかった。</li></ul>